

2021年9月1日



月刊

# もぐら通信

2024年3月1日 第136号 初版

<http://abekobosplace.blogspot.jp>

あなたへ：  
迷う事のない迷路を通して  
あなただけの番地に届きます

もぐら通信を自由にあなたの「友達」に配付して下さい



安部公房の広場 | | [www.abekobosplace.blogspot.jp](http://www.abekobosplace.blogspot.jp) | | 問合せ：[takranke2003@yahoo.co.jp](mailto:takranke2003@yahoo.co.jp)



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する  
非ユークリッド空間を映写する映写機

## 目次

- 1 目次…page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板page 3
- 3 巻頭詩（22）：八月の…：蝸舎…page 4
- 4 周辺飛行（46）：4。『安部公房スタジオ会員通信』（1）：不定期刊行物「葉書通信」の予告をかねて：岩田英哉…page 5
- 5 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（16）：9。夏目漱石の塔（F+f）と安部公房の塔（F x f）（2）[完]：岩田英哉…page 12
- 6 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉…page 28
- 7 ネット・モナド論（20）：7.4.5 都市とは何か：岩田英哉…page 29
- 8 Mole Hole Letter（59）：超越論II（第二回）：岩田英哉…page
- 9 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（16）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（4）：K 親鸞聖人の超越論：岩田英哉…page 35
- 10 Topologyで日本の文化を解説する：内なる辺境シリーズ（12）：扇：岩田英哉…page 37
- 11 編集後記…page 38
- 12 編集方針…page 39

The Best Tweets of the Month



なし



なし

今月の木石岳

木石岳 / Gaku Kiishi / Asahi (macaroom)@asahisism8

Following

ポスト安部公房派作曲家。macaroom (エレクトロニカ集団)、Kiishi Bros. Entertainment編集長。著書『やさしい現代音楽の作曲法』(自由現代社)、macaroomと知久寿焼『kodomono odoriko』。NHK『星とレモンの部屋』サントラと主題歌/ゲンロンカフェ/アイドルプロデュース他

今月の貧乏な読者

こべこべ@kobe\_kohbe.12h

#読書垢推し紹介相互フォロー祭り

最近ハイデガーを中心に哲学の勉強をしています。作家だと大江健三郎、安部公房、三島由紀夫、筒井康隆が好きです。お金がありません。

よろしくお願ひします。

今月の上演

佐賀新聞LIVE: みんなの掲示板 7月27日

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/713077>

◆見えない演劇「時の崖」「桃太郎」

(8月8日13時半と15時半、佐賀市高木町の古賀空手道場) 演劇家の青柳達也さんと薩摩琵琶奏者の北原香菜子さんが、アイマスクをした観客の前で見えない演劇を上演する。演目は13時半から「時の崖」(安部公房)、15時半から「桃太郎」(芥川龍之介)。約45分の上演後は、約15分のアフタートークも楽しめる。視界を閉ざすことで研ぎ澄まされた感覚が、新たな世界の扉を開く。

チケットは各部2000円、通し券は3000円。問い合わせは薩摩琵琶かなこ堂、電話0952(62)8396。



巻頭詩  
(22)

八月  
の  
木  
の  
虚<sup>うろ</sup>  
に  
る  
る  
黄  
金  
虫

蝸舎



周辺飛行

(46)

4. 『安部公房スタジオ会員通信』について

(1)

岩田英哉

丁度安部公房スタジオの活動の後期の5年の開始のこの時点で、この考察の最初に戻って、再度安部公房スタジオ活動の全体を俯瞰してみませう。それから各論に入りたい。第89号からの2ページを再掲します。

『周辺飛行』論

(2)

周辺思考

岩田英哉

1. PHASE 3 中の時代区分

第一回で整理したことに基づいて、もう少し筆を進めてみませう。

1970年以降の安部公房は人生のPHASE 3に入り、存在への回帰をする時代でした。前回整理した内容を承(う)けて、存在への回帰の1970年以降1993年没年までの安部公房の文学的活動を区分すると、次のようになります。

- (1) 1970～1975：「周辺飛行」時代（以後「周辺飛行時代」と一語で呼びます）：5年
- (2) 1976～1980：「安部公房スタジオ会員通信」時代（「安部公房スタジオ会員通信時代」と一語で呼びます）：5年
- (3) 1981～1993：箱根隠棲時代：12年

さて、安部公房スタジオは『リルケ』（といへば『涙の壺』）で始まり、最後は『氷の壺』で終はるのでした。これらを節目として整理のために再度挙げると次のようになります。

(0) 準備の時代

- ① 『周辺思考』（1967.11.1）
- ② 『リルケ』（1967.12.25）〔註1〕
- ③ 『試験飛行』（1968.4.3）

〔註1〕

①と③の間に『リルケ』といふエッセイを、数年前の六本木のレストラン（CHIANTI〔註A〕）での思い出として書いてみて、成城高校時代の軍事教練とリルケを読むこととの関係、即ち戦時中にリルケといふ詩人が自分にとって一体何であつたかをおもひだして書いてみます。

〔註A〕

『レストランキャンティ（CHIANTI）と安部公房』（もぐら通信第28号）をご覧ください。安部公房がリルケの息子と噂される男をレストランで見かけた話を書いてみます。

(1) 1970～1975：周辺飛行時代：5年

- ① 『周辺飛行』開始（1971.3.1）
- ② 『周辺飛行』終了（1975.6.1）

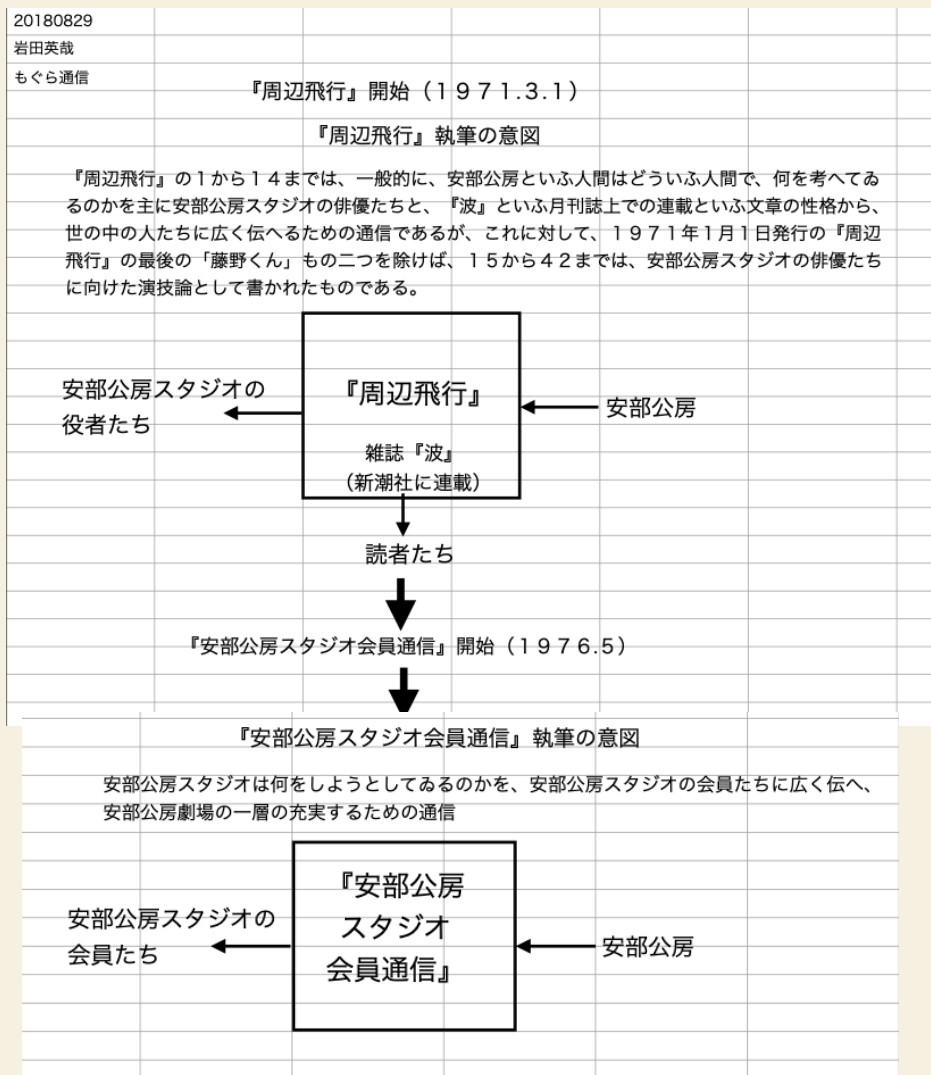
(2) 1976～1980：安部公房スタジオ会員通信時代：5年

- ① 『安部公房スタジオ会員通信』 開始 (1976.5)
- ② 『水の壺から水を飲む』 (1980.4.30)
- ③ 『安部公房スタジオ会員通信』 終了 (1980.11.1)

(3) 1981～1993：箱根隠棲時代：12年

『周辺飛行』と『安部公房スタジオ会員通信』を通読してみると、それぞれの二つの通信の性格について、次のことがわかります。図示してお伝へします。ダウンロードのURLは：

<https://ja.scribd.com/document/387474521/周辺飛行と安部スタ通信の時期区分>



上掲の「周辺飛行」と「安部公房スタジオ会員通信」の関係図の、あらためてのダウンロードは：<https://docdro.id/pnHOVrI>

安部公房は、1976年5月に『不定期刊行物「葉書通信」の予告をかねて』と題して、次の短文を全集に残してゐる。この題名からして、次のことがわかる。

- (1) この通信は不定期で発行する予定であること
- (2) 当初は葉書大か、葉書に書く程度の文章量での会員との通信であること

後者(2)については、後掲しますやうに、第2号以降は執筆者も安部公房一人ではなくなりますが、それでも葉書大と云ふ寸法・サイズはその通りに守られてゐますので、安部公房の意図は、小さな通信誌と云ふことにあつたのでせう。本当に手のひらに収まるやうな豆通信です。

と、ここまで書いてきて思ふことですが、安部公房の深い意図は、初期安部公房のたとへば『悪魔ドウベモオ』にも書かれてゐるやうに、右の手は普通は利き手ですから時間の中で役立つ手であり、左の手は不器用で役に立たぬ手でありますから存在の手であると云ふ風に安部公房は考へてゐるわけですから、この豆通信も左手と云ふ存在の手から発行されて、右手と云ふ現実の時間の中の手の平に収まるやうにと云ふ思ひから、この体裁としたのではないかと云ふことです。当然、通信ですから右手と左手の間を往復します。左手の世界を観ようと思へば、安部公房スタジオの会員たちは実際に安部公房スタジオの舞台に脚を運ぶことになります。さうして、存在の舞台と、現存在である一人一人の会員との交流が現実の世界で成り立つ。

安部公房自身の左手の写真が、全集第30巻(最終巻)の表紙の直ぐ裏の見開きに配されてゐます。





この存在の左手で書かれた『不定期刊行物「葉書通信」』での安部公房の短信は、次のやうなものです。

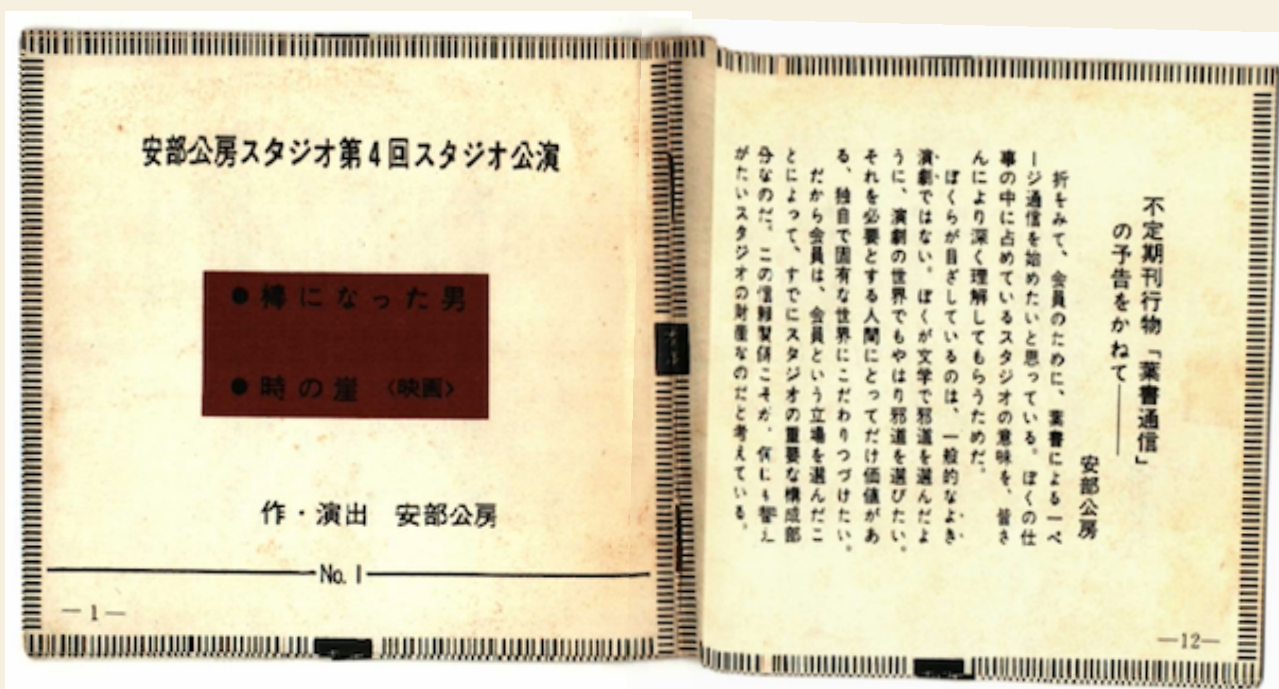
「折をみて、会員のために、葉書による一ページ通信を始めたいと思つている。ぼくの仕事の中に占めているスタジオの意味を、皆さんにより深く理解してもらうためだ。

ぼくが目ざしているのは、一般的なよき演劇ではない（原文は傍線は傍点）。ぼくが文学で邪道を選んだように、演劇の世界でもやはり邪道を選びたい。それを必要とする人間にとってだけ価値がある。独自で固有な世界にこだわりつづけた

い。  
だから会員は、会員という立場を選んだことによって、すでにスタジオの重要な構成部分なのだ。この信頼関係こそが、何にも替えがたいスタジオの財産なのだと考えている。」

安部ねりさんは、電話で話をしてみると、安部公房スタジオを略して安部スタと呼んでゐた。間違いなく、当時の若い役者たちも、また周囲の人たちもさう呼んでゐたのではないかと推測します。以後、安部公房スタジオ会員通信と云ふ長い名前を「安部スタ通信」と略称することをおゆるし願ひたい。

今まで私の収集して来た安部スタ通信は、この文章を書いてゐる時点で手元にあるのは、全号11冊の内の第7号と第11号以外の9冊の号です。上記短信の掲載されてゐる第1号を当時のままに掲載します。



棒になった男

作・演出……………安部 公房  
 照 明……………岩 浅 豊明  
 風 間……………風 間 直  
 効 果……………大 谷 直  
 寺 田……………寺 田 純子  
 丸 山……………丸 山 善司  
 舞 台 監 督……………丸 山 善司  
 大 島……………大 島 洋子  
 加 藤……………加 藤 齊孝  
 演 出 助 手……………宮 沢 謙治  
 口 果……………口 果 枝  
 清 水……………清 水 昭雄  
 制 作……………清 水 昭雄

配役

フーテンの男……………佐藤 正文  
 ♀……………条 文子  
 地獄の男……………伊藤 裕平  
 ♀……………大西加代子  
 棒になった男……………川喜田正器  
 地獄の声……………宮沢 謙治

◎昭和44年初演の「棒になった男」を今回は安部公房スタジオのメンバーであらたに納得のいく舞台づくりを目ざしました。



夕暮の 白い 三日月  
 運命の皮をむく 果物ナイフ  
 今日もまた 男が一人  
 姿をかえて 棒になった  
 月は よごれた 弁当箱の色  
 うつむいて 街は 渦まき  
 今日もまた 男が一人  
 棒になって 姿を消した

「棒になった男」より





時の崖 (映画)

監督……………安部 公房  
 撮影……………渡辺 公夫  
 制作……………新田 敏

ボクサー……………井川比佐志  
 女……………桑 文子

◎この映画は、昭和44年度芸術祭大賞受賞の話題作を安部公房自ら監督した作品。





◎安部公房スタジオ次回公演案内

6月 大津公演

「幽霊はここにいろ」

10月 西武劇場

安部公房新作書下ろし戯曲

◎スタジオ公演予定作品

「買魚」「お前にも罪がある」

二期待下さい

安部公房スタジオ

〒150 渋谷区宇田川町4-12

山手マンション地下

TEL 03・4611・0864

安部公房戯曲全集全一冊 二、〇〇〇  
書下ろし新潮劇場・安部公房作品

- 未必の故意 五二〇
- 愛の眼鏡は色ガラス 五五〇
- 緑色のストッキング 七八〇
- ウェー（新どれい狩り）八〇〇

〒162 東京都新宿区矢来町七一  
振替東京四一八〇八

新潮社

不定期刊行物「業書通信」  
の予告をかねて

安部公房

折をみて、会員のために、業書による一ページ通信を始めたいと思っている。多くの仕事の中に占めているスタジオの意味を、皆さんにより深く理解してもらうためだ。ぼくらが目ざしているのは、一般的なよき演劇ではない。ぼくが文学で邪道を選んだように、演劇の世界でもやはり邪道を選びたい。それを必要とする人間にとってだけ価値がある、独自で固有な世界にこだわりのつづきたい。だから会員は、会員という立場を選んだことによって、すでにスタジオの重要な構成部分なのだ。この信頼関係こそが、何にも替えがたいスタジオの財産なのだと考えている。

目次

Part I 塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔
5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔
6. 安部公房の塔と大江健三郎の塔
7. SF文学史を伝統的な日本文学史に上位接続 (conjunction) する
- 7.2 一体二つの文学史はいつ何処で上位接続して一体となつたのか
- 7.2.1 何故川端康成は安部公房の『壁』を芥川賞に推したのか
- 7.2.2 「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論」から引用して、二つの文学史の同時代性の重なるの文学的な潮流を吟味する
- 7.3 ヨーロッパの近代小説とは一体何であつたのか？
- 7.4 そもそも日本文学に云ふ小説とは何か
8. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔
9. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔  $\neg$ (F x f)

Part II 『文章読本』論

Part III 実践篇：小説『S・カルマ氏の逆襲』（英訳版『The Fight Back of Mr. S. Karma』：ドイツ語版『Der Rückschlag von Herrn S. Karma』）：S・カルマ著 [翻訳] 岩田英哉

\*\*\*

9. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔  $\neg$ (F x f) (2) [完]

(承前)

さて、安部公房が俳句といふ藝術をどのように考えていたかをみることにします。  
『安部公房の俳句論』（もぐら通信第26号）より引用してお話します：

「安部公房が俳句といふ、確かに明治時代に正岡子規によつて新らしくされた、それまでの、元禄時代に松尾芭蕉の完成した俳諧ではなく、俳句といふ一行詩の形式を持つ、とはいえ、その由縁を連歌にまで遡る伝統に連なるこの藝術について、どのやうに考へたかは、興味のあるところです。

安部公房といふ人は、物事を本質的に、即ち時間を捨象して構造的にみるので、どの年齢のときの発言であつても、時間の影響を受けることなく、即ち変化すること

がない。或いは別のいい方をすれば、語彙は替わつてゐても、その 当の言葉に対する概念とその認識に変はりはないのです。これが、安部公房といふ藝術家です。

安部公房は、『作者への叛逆—誓子小論』といふ俳句論を書いております（全集第3巻、333ページ）。1952年、安部公房、28歳。しかし、この直截な俳句論を読む前に、安部公房が芭蕉をどのように考へてゐたかをみることにしませう。

「人間・共同体・芸術」と題した磯田光一との対談で、安部公房は次のやうに発言しています（全集第23巻、391ページ下段）。1972年、安部公房48歳です。

「安部 芭蕉といふのもやぼ（原文傍点）だね。ぼくはこのごろ芭蕉といふのがおもしろくて、何がおもしろいのだらうと思ふと、やつぱり「やぼ」なんだな。  
磯田 芭蕉論を書いて下さいよ。みんなビックリしますよ。」

ここで、安部公房が言つてゐる「やぼ」、即ち野暮とはどのやうなことなのかを、この発言の前段を読むと知る事ができます。この芭蕉の俳句への理解をみてから、若年の俳句論に踏み入つてみませう。読者は、安部公房のものの考え方、ものの見方に全く首尾一貫性のあるのをみて、驚くことでせう。安部公房は、上の発言の前段で、田舎臭さ、野暮つたさのある藝術家として、ショパン、シェイクスピア、ドストエフスキーの名を挙げてゐて、さうして、これらの藝術家は「深く」ないのだ、そしてそれ故にその作品には普遍性があるのだといひ、何故なら、これらの藝術家には田舎性があり、野暮な由縁だからといひ、その根拠を、次のやうに述べてゐるのです。

[註1] この「深く」ないといふ言ひ方には、後年のクレオール論と同根の思想が反映しております。従ひまた、ジーンズやコーラを論じたかつた筈の安部公房のアメリカ論にそのまま通じております。安部公房の発想と感覚(センス)は、その年齢を問はず、いつも単一であり、変りません。

「安部 だいたいにおいて、専門家は過去を振り返る。しかし受け手のほうは、つねに「今」なんだよ。歴史ではない。人間のいちばん基礎になつてゐる、たとえば歩くとき—二本足で人間は歩くから—ひとつのリズムができる。またたきするとき、目がかわいてきたら目を閉じるといふ、反射がある。そういう、非常に基本的な人間の生理を基礎にして、あるリズムが生まれて来る。そのリズムといふものは時間の感覚をつくりだす。きわめて素朴なことだね。そういう素朴なところに触れなかつたら、芸術は成り立たない。だからどうしても、ちよつとやぼ（原文は傍点）じゃなくちゃいけない。いなかくささつて、「やぼ」といふことだな。」



この発言を読みますと、やはり10代の後半で至った安部公房の実存の概念に戻って発言してゐるといふことがわかります。安部公房が「深く」はないことが普遍性を獲得するといつてゐること、そして「つねに「今」なんだよ。歴史ではない。」といふ言葉を読むと、そのことが判ります。安部公房にとつては、いつも言葉を発し、また藝術の様式を問はず、何かを変換して表すその最初の場所は、その人間が今ここにかうしてあるといふこと、即ちその人間の現存在（das Dasein）の在り方であり、更に言葉を変へて言へば、未分化の実存なのです。

[註2] 安部公房が10代で理解した、安部公房独自の实存といふ概念について、後年『錨なき方舟の時代』といふ対談で、安部公房は次のやうに述べています(全集第27巻、167ページ下段)。1984年。安部公房、60歳。

「—安部さんが戦中、ハイデッガーとかヤスパースとか、そういうものを非常に熱中してお読みになつたといふことと、文学へ進んでいくこととは関わりがありますか。

安部 あつたと思ふ。実存は本質に先行するといふ実存主義の基本概念、本質といふのが一つの規定観念であり、その規定作業の前にもっと未分化の実存が先行しているといふ考え方、それがなぜぼくにとってそれほど重要な思想だったかということ、やはり戦争中だったからだと思う。」

この、実存とは未分化の状態であるといふ考へは、安部公房の独自の实存の考へです。つまり、安部公房が芭蕉を野暮だといふ意味は、松尾芭蕉といふ俳諧の詩人は、その人間の実存、即ち未分化の状態から言葉を発して、様式化した人間だといふことを意味しています。

そうして、自分自身の今ここに在る身体を基準にして、その生理的な感覚と、それが現実的な対象に反応して生まれる「時間の感覚」に基づいて、藝術を成立させること。これは、素朴な行為であり、従ひ野暮なのだといふ、安部公房の考へです。(これは、このまま安部公房の演技論の中核概念である、ニュートラルに通用する概念です。)

ここで述べてゐる「時間の感覚」は、当然周期といい、リズムといい、言語藝術の詩の世界では、韻律を踏むといふことに至ります。この韻律のことを、安部公房は、リズムと言つてゐるわけです。『反劇の人間』といふドナルド・キーン先生との対談があります(全集第24巻、246ページ)。その271ページ下段で、安部公房は、この実存から生まれる「時間の感覚」について、次のやうに言つてゐます。1973年、安部公房49歳。安部公房は、韻律、即ちリズムのことを、ここでは余韻といふ韻として論じております。

「安部 俳句などは、ものによつてはたしかにさうとう複雑な余韻といふことがあり得る。言つてゐる本人が全部はよくわかつていないような場合が充分あるわけですね。」

これに対して、キーン先生は、次のように答えています。この回答もまた、安部公房の俳句論を読むには、必要な言葉ですので、少し長いのですが、引用致します。

「キーン 松尾芭蕉は、俳句は不完全なところがなくてはいけない、句といふものは解釈であるといふようなことを言っていますね。いま安部さんのおつしやつたことに関係があるいい例が『去来抄』にあります。

岩鼻やこゝにもひとり月の客

この弟子の去来の句について芭蕉が「汝、此句をいかにおもひて作せるや」と尋ねます。去来は「こゝにもひとり」といふのを、自分以外にも美しい月に浮かれて岩の端に出て眺めてゐる人がゐた、さういふつもりで作つた、と答へるのですが、芭蕉はそれでは月なみで面白くない、「己(おのれ)と名乗り出たらんこそ、幾ばくの風流ならん。ただ自称の句となすべし」。いろいろ月を眺めてゐる人はゐるだらうが、「ここにひとり私がゐる」といふ具合に、自分が月に向つて名乗り出る一人称の句と解釈した方がずっといい。芭蕉は「自分はそう解釈してとてもよい句だと思つたのだ」と言つたので、去来が「なるほど」とうなつたといふ話です。つまり句を作つた去来よりも芭蕉の方がずっと味わい方が深かつたわけで、十七文字の不完全さが非常に深い想像力を生んだことになります。」

これは、俳諧の余韻、またその一句の余韻に関する話です。このやりとりの直前に、安部公房は、ハロルド・ピンターといふ劇作家の作品の余韻のことを論じて、余韻には、次のふたつがあるといつています。

- (1)余韻といふ響き、それが情緒になる場合
- (2)余韻といふ響き、「それが情緒ではなくて、もつと深いもののなかに入つていく」ことになる場合

この二つです。

このところの二人の会話から、ふたりの至つた結論は、余韻といふものは、日本的な和歌のような藝術にだけ特殊なものなのではなく、ヨーロッパの近代の文学にもあるのだといふ結論に至ります。

このように議論をして来た上での、安部公房の「俳句などは、ものによつてはたしかにさうとう複雑な余韻といふことがあり得る。」といふ発言なのです。さて、以上のように俳句と余韻といふことについての安部公房の発言をみた上で、若年の俳句論『作者への叛逆—誓子小論』を見てみませう。この俳句論は、1952年、安部公房26歳のものです(全集第3巻、333ページ)。

この小論を読むと、山口誓子といふ俳人が安部公房を名指して、自分の俳句を論じて欲しいと指名をしたことがわかります。何故山口誓子といふ、これも俳句の文学史上に名前の残る俳人が、安部公房を指名して、わが俳句を論ぜよといったものか、面白いものを感じます。一般的な推測では、この若い小説家ならば自分の俳句を理解してくれると思つたものか、或いはまた自分の俳句の全く予期しない面を指摘してくれるかと思つたのか、このふたつのいづれかからではないでせうか。

安部公房の読み方は、自分は俳句など全く門外漢なのであるから、この俳人の句集をテキストとして読んで、他の一切を顧みないといふ読み方をすると言っています。さて、そうだとすると、安部公房は、山口誓子の俳句に、つぎの二つの傾向があると断じています。

- (1) 「一つは、作者と対象との函数関係をえがいたもの」
- (2) 「いま一つはオブジェとして対象の切片を切りだしたもの」

この二つです。そうして、「前者は俳句の伝統的な方法であり、後者は誓子氏に固有な、あるいは誓子氏が切開いた独特の方法ではなかつたかと思ふ」と言っております。

前者、即ち俳句を「物と作者（人間一般ではなく）の函数と見る見方では、かならずその函数式のどこかに空白のまま埋められていない（？）が」あるといひ、その函数関係を、次の式で表しています。

$$Y=F(X+?)$$

更に続けて曰く、「その(?)を余情といつて、読者がパズルを解くようにその(?)を埋めることを鑑賞というらしい」と付言しております。

これは、上のキーン先生との対談で発言してゐる「余韻といふ響き、それが情緒になる場合」に相当してゐることは、言うまでもありません。しかし、また従い、安部公房は、山口誓子の俳句の特色は「余韻といふ響き、「それが情緒ではなくて、もつと深いもののなかに入つていくかに」よる場合」に相当すると考えてゐるので

す。安部公房によれば、前者の「余韻といふ響き、それが情緒になる場合」には、作者の発生を社会史的にとらえれば、それは「作者」になりたいといふ憧れにあるといひ、それを「『作者』への脱出」と呼んでいて、脱出だといふ言葉の選択が実に安部公房らしい。また従い、その作者と呼ばれる人間もまた、既にある人間のあり方ではなく、理想のあるべき姿の人間であるといふことも、安部公房らしいと思ひます。



さて、山口誓子の俳句の独自性は、後者、即ち「それ（余韻）が情緒ではなくて、もつと深いもののなかに入っていく」ことにあるといふことを、この俳句論で、安部公房は次のやうに語っています。

「誓子氏の句は、おびただしく拡大された素材と、新鮮な言葉と、そしてなによりもしばしばほとんど『作者』を抹殺してしまうことで、いわゆる俳句的なものへの叛逆を示してゐるやうに思われました。この面を、わたしが第二の方法としてあげたオブジェの方法と呼びたいと思います。」

「オブジェの方法」とは、「オブジェとして対象の切片を切りだしたもの」であり、「それ（余韻）が情緒ではなくて、もつと深いもののなかに入っていく」ものであり、そのためには、「しばしばほとんど『作者』を抹殺してしまうことで」とあると、安部公房は言つてゐるのです。

ここから先は、オブジェといふことから、当時安部公房を捉えていたシュールレアリズムに言及して、山口誓子の俳句の持つこの第二の性格を論じていて、ほとんど自分の小説の方法を論じてゐるに等しい論となつています。従い、安部公房は、俳句の余韻を、散文的に、従い論理的に、構造的に論じてゐることになります。即ち、「それ（余韻）が情緒ではなくて、もつと深いもののなかに入っていく」、その深さをシュールレアリズムの考えを例示して論じてゐるのです。

曰く、「解剖台とミシンと蝙蝠傘の邂逅」。

「この乾燥した無意味の発明」と同じものが、「誓子氏の句にしばしば見受けられる」といい、それは「グロテスクな情景」となつてゐると、安部公房はいいます。山口誓子の第二番目の性格を備えた作品は、「意味よりもむしろオブジェとしての無意味によつて成功してゐる」と言つております。

この発言は、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』のノンセンス（無意味）の世界に邂逅し、『S・カルマ氏の犯罪』を書いて、芥川賞を受賞した安部公房の、当時の小説観を表しています。安部公房は、山口誓子による俳句の作者の抹殺について更に述べ、この俳人が作者の抹殺といふことを方法としては意識していないと言つています。そこにまだ不十分なところがあると言つてゐるのです。このとき、既に安部公房は、10代のリルケやニーチェから存分に教はり自分のものとしていた、窪みに落下して、自己喪失を経験し、更にその窪みから脱出して、新たな次元に時間多層的な作品を生みだすといふことを考えてゐたに違ひないのです。

この山口誓子論の最後の方を読みますと、当時この俳人は伝統的な俳句を否定し、その革新を主張していたのでせう（全集第3巻、336ページ上段から下段へ）。

しかし、自己喪失を方法とし、既に20歳のときに『詩と詩人（意識と無意識）』といふ論文を書いて、自分の創作の方法論と方法を理論的に確立していた安部公房は、次のような言葉を山口誓子に贈っております。

俳句の世界で本当の叛逆をすといふことは、「『作者』の条件の無思想性に対する叛逆であるべきであり、そこに芸術への途があるのではないのでしょうか。そして、たとえば、誓子氏のオブジェの方法が、叛逆の一つの道ではないかと、私は考えたのです。（略）ヨーロッパ近代が、自己否定の上に、今日のリアリティの表現をかちとつてゐることを、われわれもまた日本の現実から発見しなければならないはずです。」

[註3] この「無思想性」といふ言葉の使い方にも、晩年のクレオール論を思わせ、また、書かれざる、さうして書かれるべきであつたアメリカ論の本質的なテーマの片鱗が反映しています。

安部公房の素晴らしいところは、当時世上を騒がせた桑原武夫の『第二芸術論』を引き合ひに出して、俳句の形式を遵守することと自由律の俳句をつくることに関し、問題はそのような伝統的な形式とその否定の問題なのではなく、問題の所在は作者のあり方にあるのだと断じ、その作者の位置の持つ無思想性をこそ批判しなければ、言語表現の問題は解決しないと主張してゐることです。

こうしてみますと、作者の思想性が、即ち何を考えてゐるのかといふことが、作者の未分化の実存に立つて考えることであるといふ結論になり、それが後年の安部公房の芭蕉野暮論になつておりますので、同じ視線で山口誓子の俳句を振り返つて眺めれば、山口誓子といふ俳人に、もつと野暮になれよと言つたことになるでせう。

同じことを言ふに当たつても、「未分化の実存」といふ10代半ばの、生硬な哲学用語を使つた言ひ方から、平俗な野暮といふ言葉の選択に至る48歳までの、この30数年間に、安部公房の人間としての、また散文藝術家としての、成熟を思はずにはられません。」

以上が、安部公房の俳句論の骨格ですが、読みながらお気づきのやうに、次の二つの点で安部公房は夏目漱石と同じ考へを共有してゐます。

(1) 作品を物と作者の函数であると云ふ考へ方： $Y=F(X+?)$

「俳句を「物と作者（人間一般ではなく）の函数と見る見方では、かならずその函数式のどこかに空白のまま埋められていない(?)がある」といひ、その函数関係を、次の式で表しています。

$$Y=F(X+?)$$

更に続けて曰く、「その(?)を余情といつて、読者がパズルを解くようにその(?)を埋めることを鑑賞というらしい」と付言しております。」

(2) 作者自身へと脱出するために作者を自己否定すること

「誓子氏のオブジェの方法が、叛逆の一つの道ではないかと、私は考えたのでした。(略)ヨーロッパ近代が、自己否定の上に、今日のリアリティの表現をかちとつてゐることを、われわれもまた日本の現実から発見しなければならないはずで  
す。」

漱石は、小説と云ふ概念を (F+f) であると定義しました。そしてfは情緒でありましたから、以下、上記(1)について、私の意見を敷衍すると次の通りです。

(1) 作品を物と作者の函数であると云ふ考へ方： $Y=F(X+?)$

日本の物語の伝統によれば、安部公房のいふ(?)の因子は詩魂であり、Xは批評精神です。漱石は、Xを「Fは焦点的印象または観念を意味し」、安部公房の(?)に相当する「fはこれに付着する情緒を意味す。」と考へてみますので、そこで、この安部公房の(?)を $\alpha$ と置き換へ、また漱石のfも同様に $\alpha$ と置き換へると、二人の方程式は、

$$Y=F(X+\alpha)$$

と云ふ一つの方程式で表すことができます。

漱石のXは、個人の意志の心理的・社会的解析により生まれる言葉であり文章の半面である。そして、不愉快の感情の同様の方法による解析の対象が情緒であり、または其の感情の論理的・社会的解析からXの半面として付帯的に情緒の言葉と文章が生まれる。この函数式の $F(X+\alpha)$ の $(X+\alpha)$ の変数の部分の下位分類は、漱石によれば、

この (F+f) の下位分類である三種の大別とは、

- (1) Fもfもある場合
- (2) Fのみがあり、fのない場合
- (3) Fがなく、fのみのある場合



これら三つの場合を考へてみますが、しかし安部公房は俳句にあつては、それにそもその小説観によつて、常に作品としてあり得るのは（１）の場合のみで、そして、ここで作品が有り得るとしたら、諸所既述の通り、それは足し算ではなく掛け算であるのです。即ち、 $F(X \times \alpha)$  の場合です。従ひ、 $\alpha$  は常に作品の因子としてあらねばなりませんから、漱石の云ふ（２）と（３）の場合は、安部公房の文学にはないといふことになります。

安部公房の作品に叙情がないといふことにならないのは、あなたが読者として読んでも、たとへ『砂の女』の場合のやうな乾いた砂の世界であつても其の男女の会話に生きた哀切な、人のいふ乾いた叙情のあることはご存知でせうから、そして既に何度も安部公房の小説観、即ち仮説設定の文学については論じて来ましたので、ここでは繰り返しません〔註A〕。

〔註A〕

4つには便宜上分けてありますが、お互ひに相互参照的（referencial）であることはいふまでもありません。

I 物語は、時間の空間化であるといふ安部公房の小説観

時間の空間化、即ち函数化といふ小説観はこのまま安部公房の演劇観であり、これを演技論に問題下降したものが、安部公房スタジオの演技論の中核概念「ニュートラル」である。

1. 『歴史を棄てるべき時』：全集第25巻、392ページ：武満徹との対談にこのことが出てくる。それから、プロットの強固さについて：ポーから学んだことが。

2. 安部公房氏（散文精神）：全集第28巻、298ページ

3. 『賭け』という小説がある：全集第11巻、305ページ

4. 『作品が命じる』：全集第19巻、21ページ

5. 『作品の側に主導権（私の小説作法）』：全集第19巻、21ページ

6. 『抽象的小説の問題』：全集第7巻、154ページ

7. 『何を書きたいか』：全集第4巻、348ページ

8. 『なぜ書くか』：全集第28巻、69ページ

9. 『生の言葉』：全集第1巻、481ページ

10. 物語とは：第23巻、111ページ

11. わが作品を語る：第30巻、174ページ

12. わが小説（「第四間氷期」）：第15巻、436ページ

13. わが文学の揺籃期：第23巻、24ページ

やはり1970年には、前期20年を振り返ったということ、この題名は意味している。

14. わたし的小説観：第4巻、282ページ

15. わたし的小説作法：第19巻、21ページ

16. わたしの文章：第5巻、343ページ

17. 周辺飛行1：物語とは（全集第25巻、111ページ）「物語とは、因果律によって世界を梱包してみせる思考のゲームである。現在というこの瞬間を、過去の結果と考え、未来の原因とみなすことで、その重みを歴史の中に分散し、かろうじて現在に耐え、切り抜けていくための生活技術としての物語。」

18. 私の文学観 演劇観：全集第23巻、350ページ

19. 『僕の小説の方法論』：全集第3巻、177ページ

20. 全集第23巻、109ページ：夢化作用—第13回女流新人賞選評 ここに積算の文学についての自分の創作方法のわかりやすい説明がある。これを活用すること。

21. 『散文精神』：全集28巻、298ページ

22. 『小説の書き方』：全集第4巻、492

23. 『小説の好悪像と書き方（二）』：全集第4巻、492ページ 24. 『小説の秘密』：全集第27巻、54ページ

25. 『小説は考えて』：全集第25巻、537ページ

26. 『小説は無限の情報を盛る器』：全集第28巻、49ページ

27. 『小説を生む発想』：全集第23巻、337ページ

28. 『ストーリー主義の克服』：全集20巻、136ページ

29. 『ストーリーという罫』：全集第8巻、141ページ

30. 『「砂の女」と小説作法』：全集第19巻、207ページ

31. 『創造のプロセスを語る』：全集27巻、29ページ

32. 『創造のモメント』：全集第2巻、98ページ

33. 『誰のために小説を書くか』：全集第2巻、375ページ

34. 『僕の小説の方法論』：全集第3巻、177ページ

## II 仮説設定の文学とSF文学論

自分の仮説設定の文学の淵源をポーに求めてみる

1. 私の文学を語る：全集第22巻、42ページ上段：

子供のころから文章を書くのが好きだったという発言がある。小学生のころ作り話をして先生に盗作の疑いをかけられて叱られたこと。そうして、中学二年頃に、ポーに熱中したことが発言されている。このインタビューは、この前後も非常に重要な安部公房の発言を含んでいる。

2. 私の創作ノート：全集20巻、162ページ

3. 『仮説の文学』：全集第15巻、237ページ

4. 『仮説・冬眠型結晶模様』：全集第7巻、77ページ

5. 『空想科学小説について』：全集第15巻、237ページ

6. 『空想科学小説の型』：全集第8巻、252ページ

7. 『空想的リアリズム』：全集第7巻、50ページ

8. 『ぼくのSF観』：全集17巻、288ページ

9. 『SFの流行について』：全集第16巻、376ページ

## III 小説の構造と言語の構造の一致と同一性の実現

安部公房が考へてみたのは、言語構造と作品構造の一致と同一性の実現である。作品構造がそのまま言語構造である小説を書かうとした。以下、これに関する当該箇所を。

1. 安部公房氏語る：第29巻、194ページ：

『長編書き下ろし（仮題「飛ぶ男」）やってて、ひどい病気して。で、入院してる間に、ちょっと焦ったんじゃないか。あんまり長いこと書いていないこともあるし。それで向こう側から、あるものが見えてきたんだよ。』

2. 安部公房さんに聞く：全集第29巻、228ページ：

『カンガルー・ノート』は、「全体がびっくり箱みたいに」「フランス料理から日本の懐石まで全部入っているような」

3. 大江健三郎との対談：「構造が全部ぬけたテントの梁みたいな小説」（全集第29巻、74ページ上段）

#### IV 安部公房の言語論

『安部公房文学の毒について~安部公房の読者のための解毒剤~』（もぐら通信第55号9の一章「4. 言語論といふ毒（問題下降の毒）」の最後に、安部公房の言語論をまとめて引用しましたので、ご覧下さい。

安部公房の言語論に関する発言はこれ以外にも全集のあちこちに多くありますが、ここでは小説論との関係で僅かに上記の、しかし本質を語つてゐる、参照に留めます。安部公房の言語論に関する作品の総覧はまた別途掲示します。とはいへ、安部公房の言語論は、実は単なる言語論一分野の話ではなく、実にバロック的な人間らしく範疇横断的に、小説構造論、言語とエロス（性愛）論、逆進化論と結びついてゐるのです。それは、全集の次のVに掲げた当該ページをご覧ください。いづれにせよ、言語論の総覧は稿を改めて別途掲示します。

#### V 逆進化論

この年1978年は、『密会』の刊行後で、逆進化の言葉が多い。とすると、『密会』とは、逆進化論、そして言語とエロス（性愛）、言語構造と小説構造、言語のデジタルとアナログ性を巡る小説といふ事になる。これらの主題に関する発言は、全集の次のページに明確である。

1. 全集第26巻、143ページ：「密会」の安部公房氏

2. 全集第26巻、146ページ：構造主義的な思考形式：渡辺広士のインタビュー

3. 全集第26巻、193ページ：都市への回路：『密会』を巡って逆進化論が始まる。

以上の考察から判る通り、意外なことに、安部公房の作品には叙情 $\alpha$ が必須なのです。そして、この $\alpha$ は、安部公房によれば、「山口誓子の俳句の特色は「余韻といふ響き」、「それが情緒ではなくて、もつと深いもののなかに入つていくかに」よる場合」に相当すると考えてゐるのです。」

この「「それが情緒ではなくて、もつと深いもののなかに入つていくかに」関はること、この深化が「（2）作者自身へと脱出するために作者を自己否定すること」にあたる訳です。山口誓子の俳句を例にとつて「ヨーロッパ近代が、自己否定の上に、今日のリアリティの表現をかちとつてゐることを、われわれもまた日本の現実から発見しなければならない」といふ此の方法は、そのままむしろ二年の英国での滞在中に夏目金之助が夏目漱石になるために強ひられて、生きるために発狂しながらパンを得て生きたことに、図らずも相当するでせう。他方、安部公房もまた、漱



石とは正反対に、満年齢で1歳の時から大陸の奉天で育つて十六歳で日本にやつて来て、同様に不愉快な感情に生きることになったと考へることとは間違つてはゐないと思ふ。その不愉快は、大陸と島国の風土の違いとしてよく語られることであると理解することができます。安部公房は風土の違いによる驚きと戸惑ひについては不愉快と云ふ言葉は口にしてみません。しかしこの不愉快を、それも閉鎖空間からの脱出によつて作家自身に回帰するための否定的な契機として、日本に帰国して作品が生まれたわけですから、この位相幾何学的方法が、安部公房の日本に対する消極的な感情からの自己救済であるといふ解釈もまた、 $\alpha$ といふ因子が、芭蕉が去来にいふ例を挙げたドナルド・キーンさんの言葉を借りるならば、解釈であるといふことになりますので、キーン氏の芭蕉理解にも叶ふことでせう。

さうして、ここから証明のための結論部を述べるならば、漱石は明治の時代にあつて、日英両方の国家から脱出をしたいと願つてゐたこと、それが個人の意志であれ、自己本位であれ、即天去私であれ、国境を超えて、否、漱石の塔を眺めれば、倫敦塔その他の幻想的な作品群をその人生観の象徴と捉へれば、夢の中の現実にもかも喪失して、しかし生きてゐる幽閉された空間にゐて処刑による死を前にした二人の高貴な子供の王子の姿であり、他方、安部公房の塔を眺めれば、これも読者には説明不要の通りに周知の如く、越境者としての個人の意志の発現が、それが内部の中の外部即ち「内なる辺境」であれ、外部の中の次の内部、例へば隣人との関係であれ現実の国家の国境であれ、かくある夢の中で次の夢の中に脱出する作家自身への二人の文豪の脱出劇は、このやうに眺めて見ますと、二人の方程式をめぐつて誠に共通するものがあります。漱石の式を安部公房流に変形して、

$$Y=F(X \times f)$$

とすれば一目、安部公房の文学（積算の文学）は、漱石の文学（和算の文学）を含んでゐることが、おのづと知られませう。そして、私たちは、このYについては、安部公房の作品群はすべて、物語の最後にこのYを否定する否定の積算の文学であることを知つております。二進数の世界の用語でいへば、否定論理積（non-conjunction）です。あなたがソフトウェアのエンジニアならば、真理表（truth table）のNAND（NAND operation）であることは自明でありませう。

この否定の積算が産み出す豊かさは、十代の安部公房が Rilke の存在論の詩に学んだ、最後に必ず、世のため人のため、そして私たちの生きる此の宇宙の蘇生と生命の賦活のために、open end にしておきなさい、自己を殺して宇宙の結び目を解き放つたまま、この世とお別れをしなさいといふ強い個人の意志の現れなのです。これが、漱石に始まり、遂には安部公房に至つて証明された日本の伝統的な文学の今の姿です。

明治の近代文学の始祖のもう片方、森鷗外の同じ強い意志は、その墓碑銘に石見人森林太郎とのみ記されてゐることで表現されてゐると私は思ふ。漱石と鷗外の違ひは、こと此処に至ると、前者は江戸つ子でありながら、近代日本国家の首都東京に生まれて古里がなくなり、後者は石見人として死ぬ自由があつたといふことです。前者の故郷喪失については、安部公房の塔と小林秀雄の塔のところで論じた通りです。後者の鷗外の心は、倉橋由美子が、あの土佐高知の太平洋の真夏の海の大空に立ち登る入道雲の塔を、東京に来ても塔と呼ぶのも同じ心であると私は思ふのです。

あなたの「私の中の「私」」の塔は一体どこに立つてゐるものか。もしこの間に即答できなければ、あなた自身が既に「いつの間にか」（超越論）塔に変形してゐるのであり、それがバベルの塔であり、またS・カルマ氏の永遠に垂直方向に成長するあの壁になつてゐるのだと思つてみるのが、安部公房の読者としては愉しいのではないかと思ひます。生きることは苦しみだから。古今東西の賢人のいふ通りに。

古い池や 蛙（かわず）飛び込む 水の音

古池・蛙・飛び込む・水の音、これらのいずれがYでありFでありXであり $\alpha$ であるか。結局、

砂の穴、砂の女、無名の男、砂の音。。。。

と、この芭蕉の句の構成要素をかく置き換へ変形させてみると、確かに安部公房の世界は $[-Y]$ といふことになります。それ故に、この方程式から逆にいへることは、夏目漱石の

$$Y=F(X+f)$$

といふ方程式は、夏目漱石の倫敦で得た初心をその後も二十一世紀の今に至るまでも歴史を貫き、私たち日本文学の方法論の吟味に耐え得る記紀万葉以来の伝統的な方法論であるのだといふことです。さうして、他方、この漱石の定式を含み仮設定による独自の積算の否定の定式による方法論によつて、見かけ上はどうあれ方法論の伝統的本質は変はず、永遠に「転身」〔註B〕を、安部公房の主人公たちは繰り返しながら螺旋階段を降り続け且つ登り続ける。さうしてみれば、

あのS・カルマ氏の変形した壁は、地上にではなく、地下深くへと成長し続けてゐるのではないでせうか。

〔註B〕

「問題下降に依る肯定の批判」のための此の「転身」といふ、リルケに学んだ安部公房の此の概念に

については『安部公房の初期作品に類出する「転身」といふ語について』（もぐら通信第56号から第59号）に詳細に論じましたので、ご覧下さい。

と、ここで、私の論理は反転するのである。

結局、漱石は此の足し算の式を肯定しながら、常に感情と抒情は漢詩や俳句に小説の問題の解決を求め、他方、安部公房は、「転身」完成後は小説の中に詩を入れて伝統的な日本の物語としての小説の様式を完成させた。安部公房はドナルド・キーンさんとの対談『反劇的人間』でも判るやうに俳句は好きでしたし、俳句に深い理解を有していましたが、自分で俳句を詠むことはありませんでした。口語自由散文詩についても同様です。後者については、しかし、箱根に隠棲した最晩年に写真家カルティエ・ブレッソンから写真を受け取ったお礼に次のやうな単独の詩を贈つてゐます（『カルティエ・ブレッソン宛書簡』全集第28巻、416ページ）：

「黒から湧き出る白

たがいに溶け合うことなく 機略に富んだせめぎあい

平面と立体のあいだの 存在しない次元に

さしかかった一羽の鳥

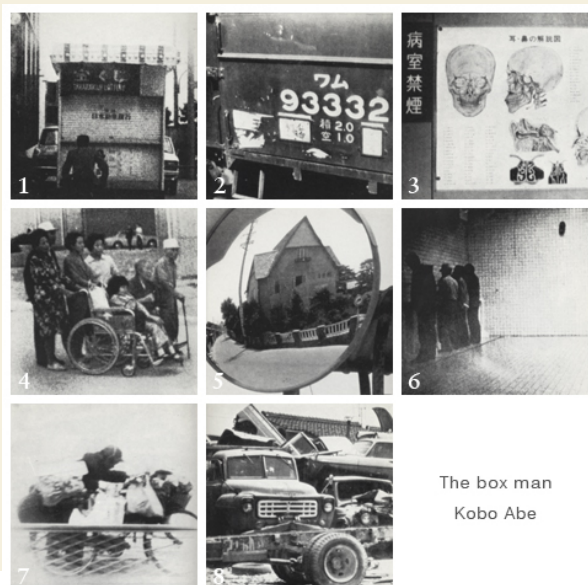
追憶に声を奪われた 沈黙の鳥

カルティエ・ブレッソン様

すばらしい写真、ありがとう。

安部公房 1989 2 16」

安部公房にとつての、漱石の俳句と漢詩と書にあたる藝術範疇が、写真であり写真撮影であり、暗室でのネガ・フィルムの現像であつた。





塔々（洒落である）、到頭、塔の文学の題字の元に論の最後まで来てしまった。

まさか、私がこんなものを書くとは思はず、書けるととすら思はなかつた。この論考の一連の章の基礎になつてゐる知識と経験は、皆高校生の時代の三年間に読んだ日本の近代の小説と、時代を飛躍して遡り平安時代の文学を読んだことによつて養はれたものである。これ以外のものは此処にはない。確かに人間は成長しないのである。それとも安部公房みたいに私だけが成長しないのであろうか。源氏物語を読み、宇治十帖の最後の一行を読み終えた感動が、私にこの文章を書かせたのだと思ふ。それは、溜め息をつくやうな一言であつた。

ああ、日本語は何て美しいのだらう……

安部公房流の点描を話法の問題として真似をすれば、このやうな思ひがした……。当時も今も、この感動を思ひ出すたびに思ひ出される源氏物語と云ふ物語に関する私の感想は短く、臃たけたる世界だ、玲瓏たる何かだと云ふ感想です。上の一行の後に一瞬の間を置いて出てきた此は今度は論理の言葉です。これをやまとことばで、みやびといふのか、本居宣長のやうにもものあはれと云ふものか。この十六歳の時に源氏物語を読む前に定めた源氏物語の読書方針が、そのまま外国語の読み方になつてゐて、そのまま今日に至つてゐる。これについてはまた超越論の文脈で何処かで触れることがあるかも知れない。

最近もまた、ああ、人に頼ることがやはり間違ひだつたんだな、専門家になど頼らず、自分で其の言語を根本から学んで自分の言葉で自分の文章を書くべきことであつたと、反省したばかりである。さうしてみると、私の源氏物語の読書方針は、個別言語の制約を超えてゐたのである。超越論的な読書といふことになります。

今回は、Part II 文章読本に移りますが、体裁としては、Part Iの塔の文学とは独立させて論じます。一体何故、日本の職業的な作家たちは、文章読本なるものを、代を重ねて書かねばならなかつたのか。これは、近代日本文学の裏面史ではないのだろうか。いや、これこそが正史であつて、文学史の方が裏面なのではあるまいか。何故なら、職業的作家たちの論じてゐるのは日本語の文章の書き方であるにも拘らず（何しろ皆書くことの専門家である）、これだけでも奇妙であるが、しかし題名は皆等しく「文章読本」といふ、名目上は文学作品の、それも専ら小説の文章の読み方であるからです。しかし、最初の「文章読本」を著した菊池寛の文章読本の奥付をみると、発行日に再販をかけてゐるので爆発的に売れたのです。この帯文にある各界有識者六人の言葉は、この読本の特徴をよく示してゐる。その後の作家たちの書く文章読本は皆、菊池寛の文章読本の延長線上にあるのだ。ちなみに、この本の最後のページに置かれてゐる菊池寛の他の本の宣伝広告に『日本競馬読本』と云ふのがあつて、菊池寛にとっては日本の競馬も日本の文章も同類であつたことが判





糞尿と性愛の文学

～生殖器・排泄器同一社会論仮説～

(3)

岩田英哉

1。古事記の中の糞尿と性愛

1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）





岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
- 4. ネット・モナド論
- 5 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
- 7. 政治形態と自由
  - 7.1 政治形態とは何か
  - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
  - 7.3 ビルダーベルク会議とダヴォス会議と国家との関係
  - 7.4 メディア・プロパガンダの構造
    - 7.4.1 中国の超限戦の手口について
    - 7.4.2 ネット大衆と情報の真贋
    - 7.4.3 何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのか
    - 7.4.4 疎外とは何か
    - 7.4.5 都市とは何か
  - 7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態
  - 7.6 政治形態Jの公私：高天原のtopology（超越論）の政治形態
- 8. 経済形態と自由
  - 8.1 経済形態とは何か
  - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか：江戸時代幕藩体制下の信用取引に学ぶ
  - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
  - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
  - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
  - 9.3 グローカリストとしての千利休と後裔たち（令和時代の人間像）

\*\*\*

7.4.5 都市とは何か



*Mole Hole Letter*

(59)

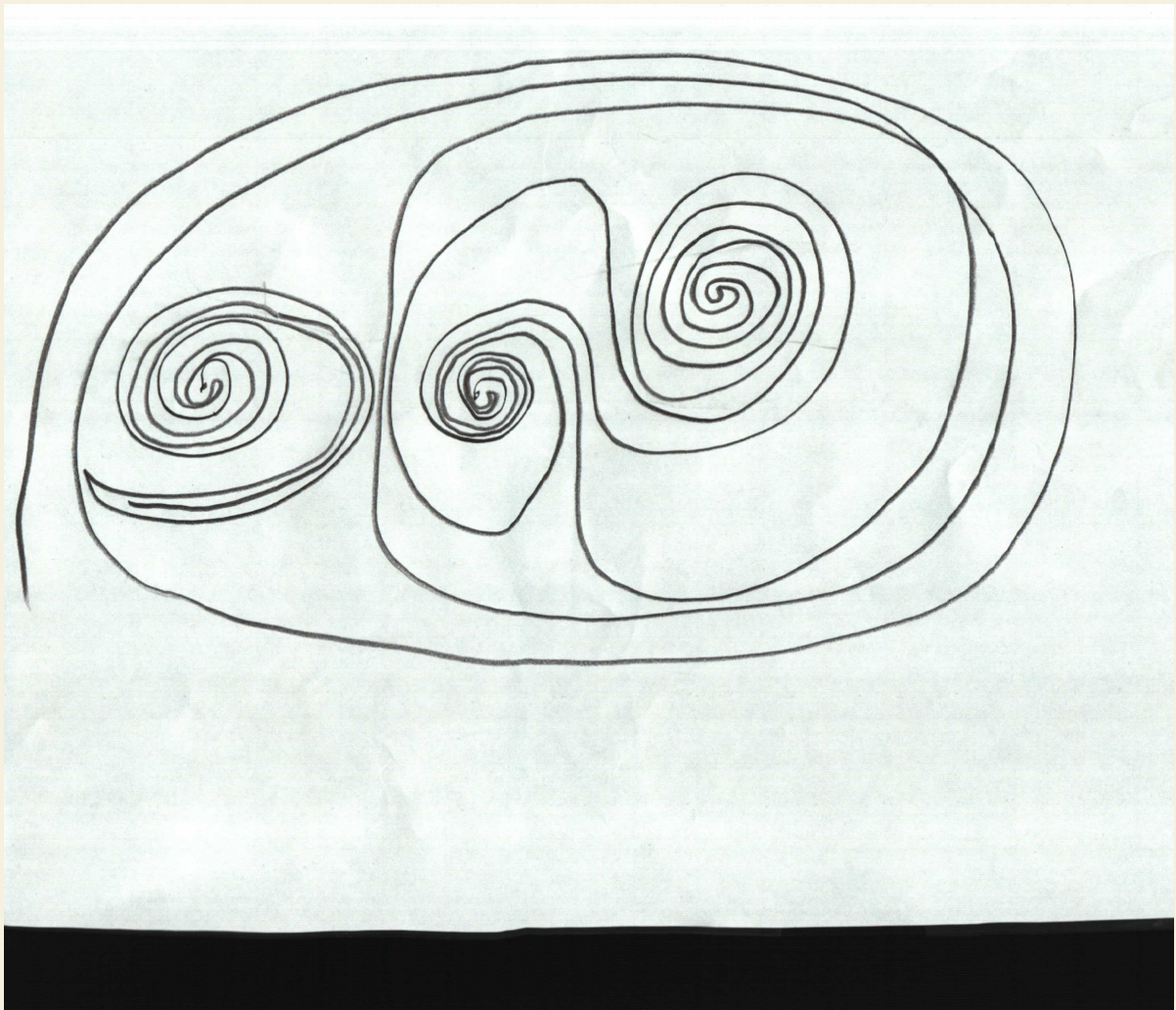
超越論 II

～百年後の読者のために～

第二回

岩田英哉

余り書き過ぎてはいけません。私が今描いたばかりの渦巻の迷路を示します。



これを、あなたも試しに一筆書きの迷路を描いてみると何が判るかといひますと、あなたの一筋の線によつて、それによつて産まれる内部と外部が絶え間なく等価交換されるといふこと、即ちあなたの引く線の左右の余白が互ひに（全体との関係で）内部かと思へば直ちにそのまま外部になつたり（漢意ならば転移したり）、目まぐるしく其の意味即ち値、即ち差異の意義・sense・内包・intensive及び意味・meaning・外延・extensive・延長の値が等価交換されて変転するのです、変転するために等価交換されるのです。これがこのまま世界の動的な姿である。私たちの仏教用語を借りていふ諸行無常であり、鴨の長明のいふ流れに浮かぶ泡沫・うたかたです。これが生理的に手を使つて実感することができる。あなたが、宇宙を白紙



の上に産み出すことができる。したがって、何処で何処に筆を動かして此の一筆書きによる形象を開にするのか閉にするのかは、あなたの全くの自由意志による。そして安部公房のいふ「カーブの向かう」へと曲がる度に内部と外部は等価交換され続け（『燃えつきた地図』）、あなたは自分の位置を見失ひ、いや思ひ出し、そしてまた見失ふ……。そこがS・カルマ氏の至つた世界の果てである。

この等価交換は、幾度も既述の通り、これは国家の格ならば大祓であり、国津の世界では祓でありますから、ズラシズレることによる等価交換によつて生ずる富（もちろん貨幣の富も当然に含まれる）の創出ですから、これがお祓ひの産み出す現実です。あなたの現実です。動かぬものは何もなく、動かぬものも何事もない。即ち、

縄文土器のあの渦巻き模様は、お祓ひのための模様である

といふことなのです。

そのお祓ひの形が丸い円であれ、矩形であれ、その他のグニャグニャであれ何であれ、何でも良いのです。とにかく一筆書きで全てを包み（風呂敷・包装紙・封筒・多量紙・折り紙・和服・鞆・巾着・菰）であれば良く、また同様に一筆書きで何事も一つにして締めるならば一と締め（鉢巻・横綱・注連縄・紅白の水引・禪）であれば何でもよく、要するに次に掲げる図形をみれば、これは日本列島一国一文明の問題ならず、海外の大陸にあつても普遍性を有するといふことがおわかりになるでせう。以下、今手元にある図形を示します。あなたの日本人としての日常の身の廻りに何もかも同じ値のものがあるはずで

ケルト民族の一筆書き：



この海外での線刻の渦巻きは、日本語でいふお祓の模様ですから、神道のもつと深い層に降りて行けば、何も神道だけがお祓してある訳ではないことがわかります。一筆書きの形象に着目して欲しい。





我らが縄文注連縄の一筆書き：



縄文注連縄土器の場合の、この紋様のお祓ひの効果は、

- (1) この器自体の穢れを祓ふこと
- (2) この器の中に入れて、立てるべき何かの穢れを祓ふこと
- (3) その食べものを口にし体の中に入れるヒトの穢れを祓ふこと

この三つでありませう。

といふことは、私たちの祖先がお祓ひの言葉を唱へる時は、

- (1) この土器を製作する時の間
- (2) この土器を使つて煮炊きをする（献立ての）前と後
- (3) この土器を使つて調理した料理を食べる（食事の）時の前と後

また、既に『縄文紀元論』にて明らかにしたやうに、

- (4) このお祓ひによつ食べる食べ方には次の二種類がある：
- (あ) 聞こし召す (天津及び国津の世界に対して)
  - (い) シロし召す (国津の世界に対して)

中臣の大祓を読むと、このやうな分類があることが判る。そして、この二つの召す言葉の命令形の、一体誰が主語であるのかと問へば、それは、上記 (い) の場合には、天津神、即ち高天原の天照大御神より天降ることを命ぜられてゐる瓊瓊杵尊であり、何故ならば「我皇孫 (あがすめみまのみこと) は/豊葦原の水穂の国を/安国と平けく所知食 (しろしめせ) と事依さし奉りき」とあつて、「事依さす」主語は「高天原に神留坐 (かむづまりま) す/皇親神漏岐神漏美 (すめらがむつかむろぎかむろみ) の命 (みこと) 以 (もち) て」とあるので、皇親神漏岐神漏美 (すめらがむつかむろぎかむろみ) の命 (みこと) によつて高天原に招集された八百万の神々が命ずる主語である。これが「所知食 (しろしめせ) と事依さし奉りき」といふ振る舞ひを命ずる主語である。誰に命ずるかといへば、瓊瓊杵尊に命ずるのです。その結果、瓊瓊杵尊は、我皇孫 (あがすめみまのみこと)」ですから、この天照大御神の天孫は「豊葦原の水穂の国を/安国と平けく所知食 (しろしめせ) と事依さし奉りき」といはれたことをなす。「事依さし」するのは、高天原に招集された八百万の神々である。「奉りき」とある主語はこれも高天原に招集された八百万の神々である。コトを依頼するカミが、今度はコト依さす当の相手である瓊瓊杵尊に依頼を奉るのです。これが、日本人の天津・国津の世界観です。そして、これは大陸では通用しない道德であり倫理であることを夢々お忘れなさるな。さなくば、あなたは命を失ふ恐れが大いにあります。夏目漱石の経験したやうに。論理の変換はできるが、感情の変換はできない。

さて、といふことは、スメラ・ミコトが「所知食 (しろしめ) す時には、山に登つて高見をし、同時に国見をする。仁徳天皇の有名な民の竈門は賑はひにけりといふ歌は、何故国見をすることと民の竈門が結びつくかといへば、スメラ・ミコトの使命が「所知食 (しろしめせ) と事依さし奉りき」にあるからです。召せと云ふ使命は食事に関係してゐる。このことに関係するカミは、高見をすることについては、高見結びのカミ、また皇親神漏岐神漏美 (すめらがむつかむろぎかむろみ) の命 (みこと) によつて高天原に招集された八百万の神々が命ずる主語である此の神々を結ぶ働きをするのは、カミ結びのカミと云ふ、あらためてみれば実に再帰的な名前を持つカミである。このカミ結びのカミもまた縄文土器の模様の中に息づいてゐると云ふことになります。大祓の第三段、即ち大祓に祓はれた世界にある「高山の伊穂理 (いほり) 短山 (ひきやま) の伊穂理 (いほり) を搔き別て所聞食 (きこしめさ) む」とあるイホリについては、これも結ぶものですが、この結びが一体何か

と云ふことについては別に『縄文紀元論』で論じます。今ここで私の着想の一端を述べれば、かくして、カミとは噛むの名詞形ではないかと云ふものです。カミがヒトの噛む・カムと云ふコトから生まれるのであれば（これはコトのハの問題）、カミとヒトとは分かちがたく、縄文土器を前にして此のお祓ひをすることによつてヒトはコト・タマに「事依さす」ことによつてカミになり、私たちにあつては私たちの身体感覚のままに、カミはヒトになるからです。この等価交換が、私たちの精神世界の富を産み出す。国見に際しての高見結びのカミ、カミ結びのカミの働きとはこのやうなものではないでせうか。これらのカミは縄文土器の注連縄模様に宿つてゐる。だとすれば、確かに「心の中のカミをいたましむることなかれ」と云ふト部神道の『六根清浄太祓』（ろつこんしやうじやうおほはらひ）の一行の意味はよく判るのです。カミは私たち一人一人の体の中にある。これは今の日本人が最も忘れてゐるコトではないでせうか。かくして、民の籠門は賑はひにけり。これが賑はふと云ふ言葉の意味であり、そのためにも瓊瓊杵尊はにぎにぎしく天降る。どのモノもコトもヒトも一本の玉の緒で結ばれてゐる。

思へば、この説は、天照大御神と素戔嗚尊が天の安の河、即ち天の原を流れる天の河を挟んで、勾玉を噛みに噛んで、更に神々を産むコトの十分な説明になつてゐます。十分なと云ふ意味は、実感を伴つたと云ふ意味です。この段を読むと、二柱のカミは、勾玉を幾つも噛みに噛んでカミを産む。と云ふことは、あの玉石で製作した本来のモノとは、食べ物形の形なのであらうか。私たちが今も食べてゐる鍋物の鍋の中には、ひよつとして勾玉を知らず知らずに入れて、食べてゐないのだらうか。秋になると食べたくなるおでんについては如何か。

もし、勾玉の本来の素材が玉石でないのならば、私たちの知つてゐる勾玉は通貨・currency・カレンシーだと云ふことになります。それも、コト・タマとしての通貨です。あるひは逆に、食べ物を象つて通貨としたのか、装身具としたのか。この延長には現代にも通用する超越論的な貨幣論が控へてゐる。当然にこの貨幣観は近代欧米諸国の貨幣論を超越して、今の通貨管理の問題を解決してゐる。これも委細別稿にて論じたい。

(以下次号)



## 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く

(16)

岩田英哉

## 目次

## I 縄文紀元日本語論

## 1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかゐらないのか？

## 2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

## 3. 五十音表を記号化する

## 4. 日本人の言語宇宙

## 5. 古事記の宇宙観

## 5.1 高天原とは何か1

## 5.2 カミとは何か1

## 5.3 高天原とは何か2

## 5.4 日本語の特殊の中の普遍

## 5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

## 5.6 天照大神とは何か

## 5.7 月読命とは何か

## 5.7.1 月とは何か

## 5.7.2 月読命とは何か

## 5.7.3 月読神社とは何か

## 5.7.4 ヤシロとは何か

## 5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

## 5.7.6 磐座と注連縄の関係

## 5.7.7 亀の甲羅とは何か

## 5.7.8 習合とは何か

## 5.8 カタカナとひらかなの関係

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

## 5.9 日本位相習合史

## 5.1.0 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

## 5.1.1 かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか

## 5.1.2 縄文土偶とは一体何か

## 5.1.3 習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか

## 5.1.3.1 位相史のための紀元の種類

## 5.1.3.2 淤能基呂島とは何か

## 5.1.5 縄文土器とは何か

## 5.1.6 大祓へを読み解く

## 5.1.6.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

## 5.1.6.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

## 5.1.6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の種類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

## 5.1.6.4 八の音義は何を意味するか

## 5.1.6.5 誰が「しろし召す」誰が「聞こし召す」のか

## 5.1.7 紫式部の超越論『源氏物語』

## 5.1.8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

## 5.1.9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

## 5.2.0 日本人はどこから来たか

## 5.16.4 八の音義は何を意味するか

5.16.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.17 紫式部の超越論『源氏物語』

5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.19 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.20 日本人はどこから来たか

\*\*\*

## 目次

## 5.16.4 八の音義は何を意味するか

- A 箱根神社の三柱の御祭神の名前
- B それでは、瓊瓊杵尊は一体どこから天下つて来たのか
- C 最初の瓊瓊杵尊は、何処からミコトを持ち運んで来たのか
- D 何故日本の国は古事記と日本書紀といふ二種類の書物を必要としたのか
- E カミとミコトとヒトの違いと同じであることについて
- F 国学とLiberal Artsの統一と普遍学 [universal science] としての日本学 [Japanology] の成立
- G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ（90万年）は何を意味するか
- H 古代の天皇の寿命の長さは何を意味するのか
- I 国学の超越論：賀茂真淵と本居宣長の超越論
- J 道元禅師の超越論
- K 親鸞聖人の超越論
- L 八岐大蛇とは何か
- M カミとは何か再説
- N シロシ・召すとキコシ・召す再説
- O 大祓に書かれてゐる場所はどのやうな場所であるか
- P 日本語の音義とひらかな・カタカナ・漢字の関係
- Q 国学言語論と欧米言語学の関係

\*\*\*

## 5.16.4 八の音義は何を意味するか（5）：K 親鸞聖人の超越論



Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界シリーズ」

(12)

扇

岩田英哉

あふぐなら いぶきどのかみ ゐたちなむ たれもかれもが みなかみがゆゑ





## 編集後記

●巻頭詩（22）：八月の…：蝸舎：これは親しい俳人の作で、いはば一行詩と云ふべきものかも知れません。この一行で何を思ふかは、あなたの自由です。この一行詩で、あなたに愉しい暑気払ひのひとつの訪れむことを。

●周辺飛行（46）：4。『安部公房スタジオ会員通信』（1）：不定期刊行物「葉書通信」の予告をかねて：到頭きたか安部スタ通信。周辺飛行が全部で44回とは。改めてコツコツとやつて来たことの成果を実感してゐます。初期安部公房から安部スタまでつながった。ここからは後期5年の通信とこの間に執筆された文章を読むことです。繰り返し、安部公房全集が編年体であることに感謝したい。きつとまたこれから何度もこの言葉を繰り返すことと思ふ。我が儘で暴言大好き人間の安部ねりさんと、そのせいで大変ご苦労をなさつた新潮社の全集ご担当の編集者の皆さんに感謝致します。きつとまたこれから何度もこの言葉を繰り返すことと思ふ。

●二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（16）：9。夏目漱石の塔（F+f）と安部公房の塔→（F x f）（2）[完]：まさかこんな論者が生まれるとは思つても見ませんでした。最初は塔と云ふ文字が、それも夏目漱石の倫敦塔とは一体何かと云ふ間に答へようとしただけで、それならば鷗外にも塔があるだらうと探したら沈黙の塔があり、このあとは陸続と塔が立つてみたと云ふ次第。どう考へても、私が書いたのではなく、塔が書いたのだとしか言ひやうがありません。しかし、日本の近代文学が総括できて本当によかつた。

●Mole Hole Letter（59）：超越論 II（第二回）：ただひたすら経験的事実を列挙するのみ。百年後の読者に向けて書いてゐるのは超越論だから。たつた三人で始めたもぐら通信ですが、今や空間的な広がりある読者は、アフリカ大陸とオーストラリア大陸を除く、諸外国と云ふことになりました。いつの間にか私の思ひ描く読者のpersona（読者像）も、日本の読者のみならず、海外にゐる日本語の出来る読者たちも含まれてゐることに昨今気づいたことでした。私の名前が海外の学術論文の世界で、外国語で引用され典拠としてもぐら通信の名前と一緒に明示される日が来ようとは思つてもゐないことでした。今ゐる読者数は3000人です。そのうちまた、海外からのご寄稿のあることを楽しみにしてゐます。もちろん何語であらうと私が訳します。

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館  
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。